

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

199-671

事務事業名	科学実験教室推進事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	学校教育課			1	10	2	2	10	3	1,645
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり				包含する細々目							
施策	22 義務教育の充実											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等						
		事業期間	11	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	小中学校(児童生徒及び教員)、市民(親)	児童生徒数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			9639	9550			
		飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
			107844	107000			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	・子どもの理科離れが叫ばれている昨今、一人でも多くの児童生徒が科学の楽しさや不思議さを学び、興味を持ってもらう。 ・教員や市民(親)が自分で考えて作ることの大切さを子どもたちに伝えるための手段を学ぶ。 ・地域・公民館等の活動への児童生徒との参加に向けて一翼を担う。	巡回科学実験教室参加者数	18目標	4000	最終目標	4000	
			18実績	3669	19目標	0	↑
			23目標	4000	23実績		最終目標達成年度
		理科実験ミュージアム参加者数	18目標	4000	最終目標	4000	
		18実績	6594	19目標	4000	↑	
		23目標	4000	23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値	
	後藤道夫先生による「巡回科学実験教室」、科学教育ボランティアグループ「おもしろ科学工房」の活動により、児童生徒や市民に科学の面白さを体験してもらう。	18年度の実績	・基本的には17年度事業を継続実施する。 ・ボランティア団体「おもしろ科学工房」の活動を経済的に継続して支援する。 ・巡回科学実験教室の学校主体化に向け、教職員を含めた検討会を開催するとともに、教員への研修を実施する。 ・おもしろ科学工房については、技術的な自立にむけて資質向上を図る取組を行う。	巡回科学実験教室実施校数 理科実験ミュージアム開催回数	40 51
		19年度計画	・基本的には平成18年度事業を継続実施する。 ・巡回科学実験教室については、後藤道夫先生の体調により1年間休止する。 ・出前工房について、スタッフが地区担当者への事前指導により、できる限り各地区主体で対応できる方向に移行していく。 ・南信州観光公社の体験教育旅行への協力を行う。	巡回科学実験教室実施校数 理科実験ミュージアム開催回数	0 60

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	1,645	1,645
	事業費計(A)	1,645	1,645
人件費	正規職員所要時間	18年度 300	19年度 300
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	1,073	1,073
	トータルコストA+B	2,718	2,718

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	・理科離れに歯止め ・教員による楽しい理科授業や親子のコミュニケーションを図ることにより、未来を担う教育を行い義務教育を充実し児童生徒の生きる力をつける。	基礎学力の水準(小学校)	現状値	51.8	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	52
	基礎学力の水準(中学校)	現状値	52.1	19実績		
		20実績		21実績		
22実績			23目標		52.5	

<p><b>この事業を開始したきっかけ</b></p> <p>飯田市出身(八王子市在住)でサイエンスプロデューサーの後藤道夫先生が「故郷の子どもたちに自分の知識と経験を伝えたい、科学を好きになってもらいたい」との想いから飯田市を訪れ、平成11年度1学期に「巡回科学実験教室」を実施。その後市が後藤先生に継続開催を要請する。</p>	<p><b>事業を取り巻く状況の変化</b></p> <p>・巡回科学実験教室の効率的運営と後藤先生不在時の科学実験教室実施のため、平成13年6月「おもしろ科学工房」を設置          ・平成14年度に後藤先生がかざこし子どもの森公園長に就任し、公園来場者を対象にした「理科実験ミュージアム」の運営を開始          ・平成18年度から観光課との連携により、おもしろ科学工房が南信州観光公社の実施する体験教育旅行に協力。</p>	<p><b>事業に対する市民や議会の意見</b></p> <p>・「巡回科学実験教室」は児童生徒及び教員から好評である。          ・「理科実験ミュージアム」は参加者の満足を得ている。(アンケート結果)</p>
---	--	---

**【See】18年度の振り返り**

<p><b>目的妥当性評価</b></p>	<p>(評価) <b>結びつく</b> (その理由)</p> <p>科学実験を行い、楽しさや不思議さを感じるにより、直に興味を持つもらえる。</p>	<p><b>有効性評価</b></p>	<p>(評価) <b>余地がある</b> (その理由)</p> <p>中学生の参加が少ないため、中学生が参加しやすい・参加したい方法を検討する。          地域、公民館事業へ参画及び技術指導等の協力を行うことにより、より多くの対象に効果が生じる。</p>
	<p>(評価) <b>必要性がない</b> (その理由)</p> <p>対象は小中学生、保護者、市民であり、拡大の必要はない。</p>		<p>(評価) <b>影響あり</b> (その理由)</p> <p>上位目的達成の中心的手段であることから、廃止は上位目的の放棄となる。</p>
	<p>(評価) <b>必要性がある</b> (その理由)</p> <p>後藤先生だけでは行うことができないこともあり、ボランティアグループ「おもしろ科学工房」の協力を得ている。おもしろ科学工房の技術的自立にむけた支援が必要である。</p>		<p>(評価) <b>統合不可能</b> (類似事業名、理由)</p> <p>地力向上システム事業があるが、同事業が具体化したときに検討することとする。</p>
	<p>(評価) <b>必要ある</b> (その理由)</p> <p>人的関与については、おもしろ科学工房の育成期であるため、当面の間必要になる。          経済的関与については、継続して支援を行わなければ運営ができない。</p>		<p>(評価) <b>不可能</b> (その理由)</p> <p>職員の関わりについて、現在、最低限であり、これ以上の人件費削減はできない。教育事業として現状の関わりを最低限維持する必要がある、これ以上の人件費削減は不可能である。          事業に係る消耗品・備品等については、継続して負担する必要がある。</p>
<p>市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)</p>	<p>(評価) <b>必要ある</b> (その理由)</p> <p>人的関与については、おもしろ科学工房の育成期であるため、当面の間必要になる。          経済的関与については、継続して支援を行わなければ運営ができない。</p>	<p><b>効率性評価</b></p>	<p>(評価) <b>不可能</b> (その理由)</p> <p>成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？</p>
<p>市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)</p>	<p>(評価) <b>必要ある</b> (その理由)</p> <p>人的関与については、おもしろ科学工房の育成期であるため、当面の間必要になる。          経済的関与については、継続して支援を行わなければ運営ができない。</p>	<p><b>公平性評価</b></p>	<p>(評価) <b>妥当である</b> (受益者とその理由)</p> <p>教育事業であり受益者負担はなじまない。また意図にある対象を増加させるという観点から市費負担が妥当である。</p>

**【Plan】改革改善**

<p><b>今後の事業の方向性</b></p> <p><input type="checkbox"/> 終了  <input type="checkbox"/> 廃止  <input type="checkbox"/> 休止  <input type="checkbox"/> 目的見直し  <input type="checkbox"/> 別事業に統合  <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善  <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>実施年度 <b>具</b>  <b>体</b>  <b>化</b></p>	<p><b>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</b></p> <p>中学校に、中学生参加のPRを行う。          おもしろ科学工房の自立を促進する。</p>
<p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p>	<p>巡回科学教室の中学校での開催、理科実験ミュージアムへの中学生参加が少ない。中学生の参加を促進させる必要がある。          後藤先生の後継者の育成。</p>

**【補足事項環境側面】**

<p>(1) 環境影響評価の必要性判断</p>	<p>(2) 必要性な場合の実施事由</p>
<p>(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？</p>	

**【指摘事項】**

<p>施策マネジメント会議</p>	
<p>施策評価会議</p>	
<p>第5次基本構想基本計画推進委員会</p>	